



夏の避難所におけるノロウイルスの予防対策

避難所生活では、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の感染リスクが高まります。ノロウイルスは感染力が強く、手指や食品などを介して経口で感染し、ヒトの腸管で増殖し、おう吐、下痢、腹痛などを起こします。

◎手洗い◎

手指に付着しているノロウイルスを減らす最も有効な方法です。食事の前、トイレに行った後、下痢等の患者の汚物処理やオムツ交換等を行った後には必ず行いましょう。指先、指の間、爪の間、親指の周り、手首、手の甲、汚れの残りやすいところをていねいに洗うことが大切です。

◎消毒◎

ノロウイルスに感染した人のふん便や吐ぶつには大量のウイルスが排出されます。おむつや吐ぶつの処理、食器、リネン、日用品などの消毒は、次亜塩素酸ナトリウムが有効です。

家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤でも代用できますが、かならず「使用上の注意」をよく確認してから使用しましょう。

*消毒する物などによって希釈倍率が異なります。

*吐ぶつなどの酸性のものに直接原液をかけると、有毒ガスが発生することがあります。

詳しくは厚生労働省HP
ノロウイルスに関するQ&A



避難所内の感染拡大を防ぐためには、ノロウイルスに感染した人のふん便や吐ぶつからの二次感染、ヒトからヒトへの直接感染、飛沫感染を予防する必要があります。下痢、おう吐、発熱などで体調が悪い場合は、すぐに避難所職員に伝えるようにしましょう。

定点 種別	疾患名	状況	32週(8/3～8/9)		33週(8/10～8/16)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	—	3	0.13	10	0.43
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		27	1.17	21	0.91
	急性呼吸器感染症(ARI)		782	34.00	519	22.57
小児科	RSウイルス感染症		13	0.93	4	0.29
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	4	0.29	1	0.07
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	21	1.50	12	0.86
	感染性胃腸炎	—	36	2.57	25	1.79
	水痘(みずぼうそう)	—	3	0.21	4	0.29
	手足口病	—	11	0.79	4	0.29
	伝染性紅斑(りんご病)	—	0	0.00	1	0.07
	突発性発しん		14	1.00	6	0.43
	ヘルパンギーナ	—	5	0.36	3	0.21
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	1	0.07	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	2	0.40	2	0.50
基幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		1	0.20	5	1.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし